あとがき

本リーフレットの対象地域は旧伊賀国の過半を占め、古来より様々な歴史が展開された土地である。今回、三つの河川に関する情報を収集するとともに、伊賀国の歴史を学んだが、伊賀国史の全貌を十分に把握できずその一部しか反映できなかった。例えば、奈良時代から平安時代に都などに木材を供給した杣山、平安時代末期に伊賀国北部を支配した伊勢平氏、戦国時代に織田家の侵攻に徹底抗戦をした天正伊賀の乱などは興味深いテーマであったが、紙面の都合もあって記載できなかった。

なお執筆に当たり、場所の選定から案内、また資料や写真の提供まで、木津川源流研究所　川上聰氏の協力を得たことを記して謝意を表します。

（公社）日本水環境学会関西支部川部会／山本　攻

参考文献

・赤川一博, 伊賀国新大仏寺 ―歴史と文化財―, 新大仏寺, 1995.
・近畿地方建設局木津川上流工事事務所, 上野遊水地事業 – http://www.kkr.mlit.go.jp/kizujyo/outline/river/ueno.html
・近畿地方建設局木津川上流工事事務所, 木津川史, (社)近畿建設協会, 1980.
・近畿地方建設局淀川工事事務所　淀川資料館, 淀の流れ(1), No.30, 1985.
　– http://www.yodo-museum.go.jp/nagare/pdf/no30/no30.pdf
・久保文武, 図説　伊賀の歴史(上下巻), (株)郷土出版社, 1992.
・滋賀県立琵琶湖博物館, 琵琶湖のうつりかわり – http://www.lbm.go.jp/tenji/atenji/guide/a2.html
・寺社等パンフレット:穴穂宮神戸神社, 城之越遺跡, 新大仏寺, 鳴塚古墳, 都美恵神社, 伊賀一宮敢國神社, 旧崇廣堂, 旧小田小学校本館, 史跡蓑虫庵.
・柘植歴史民俗資料館, 俳聖松尾芭蕉・文豪横光利一・医学博士橋本策.
・三重県環境生活部文化振興課, みえの歴史街道 – http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/kaidou/rekisi/index.htm

既刊の紹介

・源流を行く 編　『名張川』(2013)
・おうみの川 編　『赤野井湾と流入河川』(2013)
・みやびな川 編　『白川』(2010)『鴨川・明神川』(2012)『琵琶湖疏水』(2013)
・歴史とロマンの川 編　『瀬田川・宇治川』(2010)『保津川・桂川』(2011)『芥川』(2011)『猪名川』(2013)
・なにわの川・庶民の川 編　『東横堀川・道頓堀川』(2011)『恩智川・生駒の川』(2012)『中河内の川』(2013)

〈企画編集〉（公財）琵琶湖・淀川水質保全機構
（公社）日本水環境学会関西支部川部会
（一社）近畿建設協会

琵琶湖・淀川　里の川をめぐる
～ちょっと大人の散策ブック～〈源流を行く編〉

木津川上流（Kizugawa）

〔発　行〕平成25年12月
〔発行者〕公益財団法人　琵琶湖・淀川水質保全機構
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-2-15（大手前センター ビル4F）
TEL. 06(6920)3035　FAX. 06(6920)3036
<ホームページ> http://www.byq.or.jp/
＊散策ブックはホームページ上で閲覧することができます＊

©BYQ, 2013　Printed in Japan

「　飲める水　遊べる水辺　次世代に　」

琵琶湖・淀川　里の川をめぐる

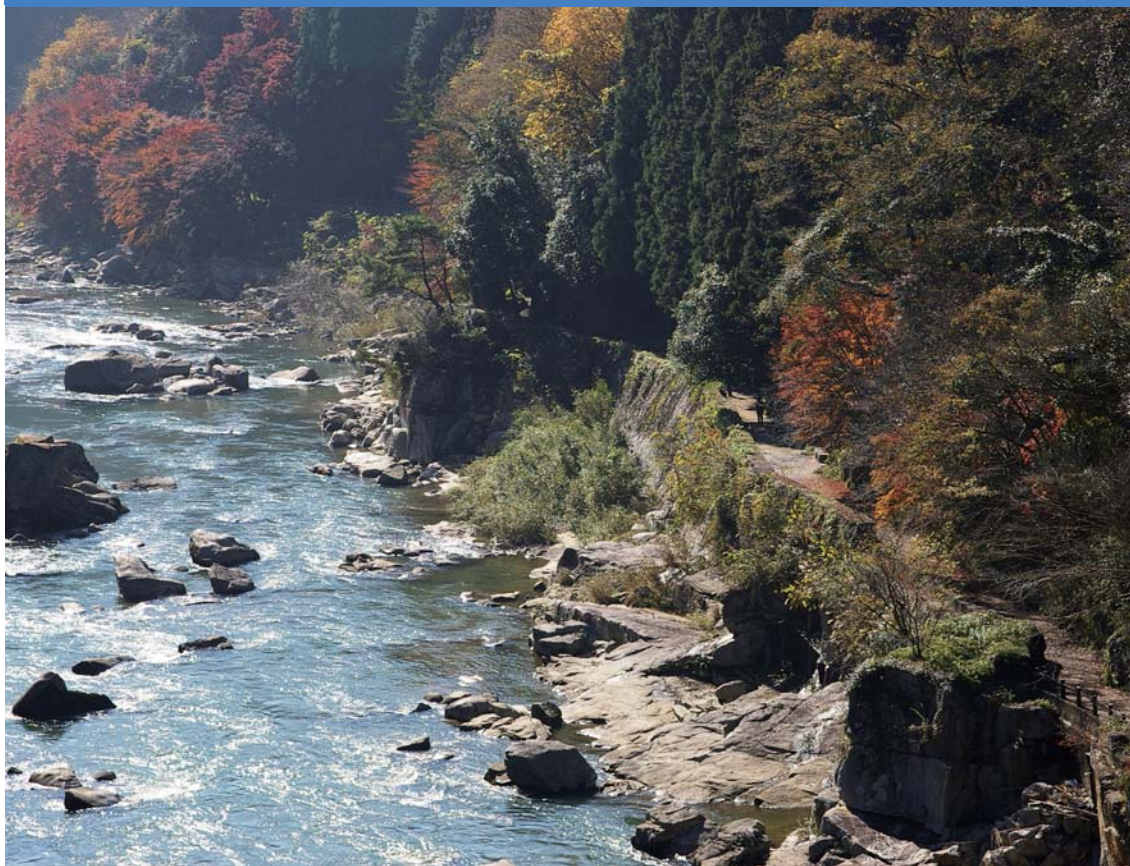
～ちょっと大人の散策ブック～

源流を行く 編

木津川上流

（Kizugawa）

（公財）琵琶湖・淀川水質保全機構
（公社）日本水環境学会関西支部川部会
（一社）近畿建設協会



「琵琶湖・淀川流域散策ブック」のねらい

（公財）琵琶湖・淀川水質保全機構と（公社）日本水環境学会関西支部川部会、（一社）近畿建設協会は、大都市圏の川を水質という側面だけではなく総合的に把握し、その機能を再評価するために川部会が2001年より行ってきた活動の成果を基礎に、「琵琶湖・淀川流域散策ブック」をまとめることになった。

この散策ブックは、琵琶湖・淀川流域の河川を散策する時に気軽に携帯できるガイドブックを意図して作られており、対象河川の概要はもとより、流域の見どころ、名水や滝、水質や生物、その川にまつわる興味深い話などが、豊富な写真や地図を用いて解説されている。

散策ブック全体は、「源流を行く」、「おうみの川」、「みやびな川」、「歴史とロマンの川」、「なにわの川・庶民の川」の5編で構成され、それぞれ5、6リーフレットからなる。本リーフレットでは、源流を行く編として、最上流部でありながら、古来より大和と津・伊勢を結ぶ重要な交通路が通っていた木津川およびその支流である服部川、柘植川を取り上げた。

本ブックシリーズが、琵琶湖・淀川流域の河川に親しみを感じ、流域を散策するための一助になることを願っている。

目次

CONTENTS

ねらい・目次

木津川上流部の概要 …… 02

木津川 …… 03

　コラム１　伊賀の忍者 …… 05

服部川 …… 06

　コラム２　古琵琶湖 …… 08

柘植川 …… 09

伊賀市街地 …… 11

　コラム３　岩倉峡狭窄部と上野遊水地事業 …… 11

　コラム４　木津川上流部の水質 …… 13

岩倉峡・島ヶ原 …… 14

（表紙写真／岩倉峡と水力発電所水路跡遊歩道）

1　木津川上流部の概要

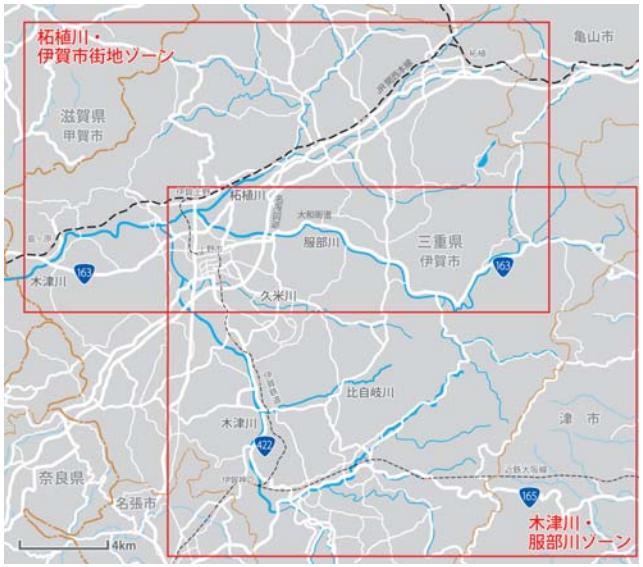
木津川は、淀川の支流の一つで、三重県の布引山地（通称 青山高原）に端を発し、大阪府と京都府の境あたりで宇治川、桂川と合流して淀川となる。このリーフレットで取り上げる木津川上流部は、三重県と京都府の境から上流を対象としており、そこには北から順に柘植（つげ）川と服部川の二つの大きな支流と木津川が流れている。

柘植川は、伊賀市東北部の加太（かぶと）峠付近を源流とし、柘植盆地を西に流れて伊賀市市街地の北部で服部川に合流している。服部川は、三重県伊賀市と津市の境にある布引山地の長野峠付近を源流とし、大山田盆地を西に流れ伊賀市市街地北西部で木津川に流入している。木津川は、服部川と同様に布引山地の坂下（さかげ）を源流とし、阿保（あお）盆地を西流し上野盆地を北流している。木津川は、その後、伊賀市西北部から笠置山地を刻みこむように岩倉峡の渓谷を形成して西に流れている。

これら三河川の集水域は、滋賀県甲賀市の一部を含んでいる他はおおむね伊賀市全域となっている。

古来より人の活動の盛んな地域であり、多くの遺跡・史跡が点在しており、縄文時代にまで遡る遺跡もある。また、伊賀は、滋賀県の甲賀と並んで忍者を生んだ地として知られている。

なお、木津川の名前の由来は、奈良盆地に官衙（かんが）や寺社を造営するときに、伊賀地方の木材が伐採され、川によって現在の京都府木津川市付近にまで運ばれたが、木材が陸揚げされる地点が、「き(木)のみなと(津)」と呼ばれたことによっている。



木津川上流流域図

2 木津川

木津川の源流がある坂下は、伊賀市東部で国道165号線と163号線を結ぶ県道2号線の途中にある。川は2号線に沿って流下し、下川原付近で阿保盆地に入る。

このあたりに初瀬街道の伊勢路宿(いせじ)がある。165号線(初瀬街道)から青山川を渡って宿に入っていくと大きな常夜燈が迎えてくれる。全盛期には街道で最もにぎわった宿場であったそうだが、現在は昔の面影を残すこじんまりとした街並みである。

初瀬街道を川沿いに下った阿保の東に大村神社がある。本殿の横には要石(かなめいし)があり、地震を起こす大ナマズを押さえていることで、地震の神様として有名である。

神社から少し下流にあるのが阿保宿で、この付近の中心となっている。街中には、江戸時代末期からある若戎(わかえびす)酒造が博物館を開設しており、予約が必要であるが、酒造りの工程をビデオで見たり、季節によっては試飲も可能である。

阿保盆地に出る手前の木津川

伊勢路宿の常夜燈

大村神社拝殿

初瀬街道阿保宿

初瀬街道阿保宿常夜燈

城之越遺跡

神戸神社拝殿

伊賀市には、三重県で最も多い八つの蔵元がある。これはこの地方で良質の米がとれ、水が良好であったことを示している。

阿保の南西のはずれに、阿保親王墓がある。親王は垂仁天皇の息子で、名前は息速別命(いこはやわけのみこと)といい、阿保の地に封じられて住まわれたことにより、「阿保親王」と呼ばれている。明治初期に、阿保親王墓と定められたが、採集された円筒埴輪片から古墳の年代は5世紀後半とされており、被葬者については異論がある。

阿保の北方には国指定名勝および史跡城之越(じょのこし)遺跡がある。ほ場整備の際に立石や貼り石がある大溝が発見されたもので、現在は建物跡や学習館とともにきれいに整備されている。大溝には、3つの小さな泉がありそこから湧き出た水が集まって水路となっており、当時は水に関する祭礼が執り行われていたのではないかと推定されている。現在は、展示として人工的に水を循環させているが、発掘した当時は水がわずかに湧き出ていたそうである。学習館には、城之越遺跡に関する資料だけではなく、近くの比自岐(ひじき)小盆地北側の丘陵上にある石山古墳などの資料も展示している。

近鉄伊賀神戸駅から北方に神戸神社(かんべ)がある。この神社は、大日霎貴命(おおひるめのむちのみこと)(天照大神の別称)を主祭神としているが、倭姫命世記(やまとひめのみことせいき)によれば倭姫命が天照大神を祀る場所を探し歩いた途中、この地(穴穂宮(あなほのみや))に崇神天皇66年から4年間祀ったとされており、元伊勢と呼ばれている。境内はそれほど大きなものではないが、拝殿の奥に立派な本殿があり、伊勢神宮が20年に一度の遷宮で建て替えられるとき、その古材を譲り受けて建て替えられてい

る。境内には、天之真名井と呼ばれる泉があって、いつも枯れることなく水がわき出でている。泉から拝殿を振り返ると、右側に大きな杉の木が立っている。江戸幕府によって伊勢および伊賀国の領主に封ぜられた藤堂高虎が、前任地であった伊予国から持ってきて植えたと言われている。

真名井には、神の恵みの水がわき出る泉といった意味があり、その名は全国的に使われている。伊賀鉄道の依那古駅から西の猪田にある猪田神社（少し南の下郡にも同名の神社がある）の末社にも真名井神社がある。

上林には、国道422号線に沿って水路がある。田植えの頃になると水路から田に水をくみ上げる水車が並ぶのが、上林の水車群である。水車の板の端に付けた容器で水をくみ上げる簡便なものである。近年数が減ってきているが、季節の風物詩となっている。

神戸神社の天之真名井

上林の水車群

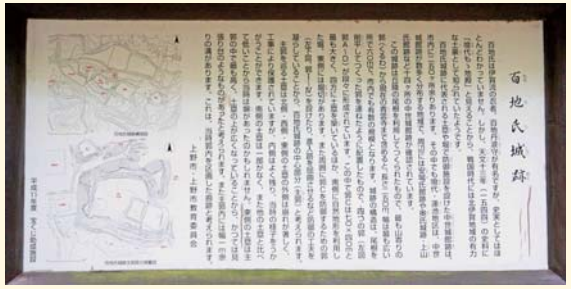
コラム❶ 伊賀の忍者

伊賀の名前を全国に知らしめている一つに忍者がある。

伊賀地方は、平安時代以降東大寺の荘園となっており、他の地方のように守護・地頭が戦国大名としてその地を支配する形ではなく、多くの地侍が小さな館を築いて勢力を争っていた。そのような小競り合いの中で活躍したのが忍者で、敵の情報収集や敵地でのかく乱などを行っていた。それらの忍者を束ねていたのが上忍で、伊賀には服部、百地、藤林の三家の上忍がいたとされている。

三河の徳川家につかえていた服部氏は、明智光秀謀反の時に、徳川家康の泉州堺から三河への脱出を助けた。この功績で、伊賀者200人が江戸幕府に召し抱えられている。

東部喰代の山中に、百地氏の砦跡がある。



〔百地丹波守砦跡の説明板〕

服部川源流付近

猿蓑塚

新大仏寺大仏殿

新大仏寺山門額

馬野渓谷

木の館豊寿庵

3 服部川

服部川の源流は、伊賀市と津市を結ぶ県道42号線（伊賀越）が布引山地を越える峠の手前のやや北方付近にある。42号線と国道163号線（伊賀街道）が出会うあたりに、松尾芭蕉の有名な句

「初しぐれ猿も小蓑をほしげなり」

を刻んだ猿蓑塚がある。

服部川に沿って走る163号線を下ると、かつて藤堂藩（津藩）が津と伊賀の間で公用の荷物を運ぶのに設けた伊賀八宿の平松宿に出る。その西側、川を挟んだところに新大仏寺がある。平安時代末期の源平の争いの時に、奈良の東大寺大仏殿が焼失するが、その復興に尽力した俊乗坊重源上人が創建した寺院である。伊賀には、東大寺領の杣山があり、上人はそれらの山から木材を切り出す作業を指揮した。寺には、本尊の木造廬舎那仏座像（国指定重要文化財）のほか、木造重源上人坐像（同）などがある。

このあたりの服部川やその支流、木津川の本支流には、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオが数多く生息している。オオサンショウウオは、大きいもので体長100cmを超える夜行性の両生類で、日中に見ることは難しいが夕方には姿を見せることもある。

伊賀街道を下っていくと川北の交差点がある。ここから県道2号線を行くと、春の新緑から秋の紅葉まで、渓流と木々が織りなす渓谷美で知られる馬野渓谷がある。渓流釣りのメッカでもある。

川北の集落を過ぎると山が川の方に押し出してくるが、そこを過ぎたあたりに、木の館豊寿庵がある。日本シャクナゲ（4月）やアジサイ（6～7月）など四季の花が楽しめるほか、木の資料館がある。

街道を進むと伊賀八宿の**平田宿**に出る。平田の交差点から西側の川沿いに**せせらぎ運動公園**があるが、その西端にゾウ・ワニの足跡化石のレプリカがある。この地に生息していたゾウは、ミエゾウと呼ばれ、現在のアフリカゾウより大きかったとされている。

コラム②にあるように、この一帯は現在の琵琶湖の起源となる古琵琶湖の一つである**大山田湖**であった。そして、化石は350万年前のものとされており、集中豪雨で服部川の川岸が崩れたときに発見された。大山田湖に土砂が堆積し、古琵琶湖層と呼ばれる地層が形成された。服部川ではこの地層の露出を見ることができる。なお、**平田橋**の南詰には大山田公民館があり、この地域が古琵琶湖以前に海だったころのクジラの化石（レプリカ）などが展示されている。

平田の北の**甲野**に、**大日殿極楽寺**がある。石段を上り朱塗りの山門を入ると特徴のある屋根を持つ本堂が目に入る。本尊は木造大日如来像である。

伊賀市は、三重県でも古墳の多い地域である。この付近では、前方後円墳の**寺音寺**や**鳴塚**、盛土が無くなり玄室と羨道だけが残っている**辻堂**の三つの古墳が有名である。またこの地は、壬申の乱に敗れた大友皇子の母であった伊賀采女宅子娘の生誕地と伝わり、これらの古墳群から往時が偲ばれる。

服部川が上野盆地に流入する手前には両側から丘陵が迫る**中ノ瀬**がある。その中ごろの道路際に、**中ノ瀬磨崖仏**がある。真ん中が伝阿弥陀三尊像、向かって右側が地蔵菩薩像、左側が不動明王像である。これらは、東大寺の復興や新大仏寺の建立で活躍した宋系の石工によって彫られたとされている。また、川を挟んで旧伊賀街道があるが、そこにも小さな磨崖仏があり、野仏の道と呼ばれている。

中ノ瀬を越えると視界が開けてくる。服部川を渡ったところに**荒木又右衛門生誕之地の碑**がある。荒木又右衛門は鍵屋の辻で仇討を果たした渡辺数馬に加勢したことで知られている。実際に生まれたとされている荒木村は、碑からやや東にある。

伊賀街道は、伊賀市市街地の手前で柘植からの大和街道に合流するが、服部川は市街地の東北から北側を巻くように流れ、市街地北西部で木津川と合流する。

ゾウの足跡化石（レプリカ）

服部川河岸に露出している古琵琶湖層

クジラの化石（レプリカ）

大日殿極楽寺

寺音寺古墳

中ノ瀬磨崖仏

野仏の道の石仏

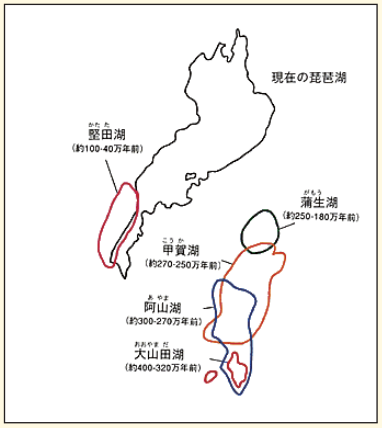
荒木又右衛門生誕之地の碑

服部川と柘植川の合流点

コラム❷　古琵琶湖

伊賀盆地およびその周辺部は中新世（約2,300万年～約500万年前）の頃には、浅い海だったと考えられている。500万年前頃からの地盤の上昇で準平原となったが、地震による断層により低地が形成された。最も落ち込みが大きかった伊賀ー大山田地区に約400万年前に大山田湖ができ、320万年前まで続いた。これが古琵琶湖の始まりである。次いで、約300万年前から270万年まで阿山湖ができ、甲賀湖、蒲生湖と消長を繰り返しながら、次第に北上していった。

古琵琶湖の変遷は、琵琶湖博物館に展示されている。



4 柘植川

柘植川の源流は、国道25号線（大和街道）の加太峠の近く大杣池の付近である。伊賀地方は、幾度も洪水の被害を受けているが、一方で、雨が降らなければ干ばつに苦しめられた地域でもある。大杣池とそれに続く鴉山池は、干ばつに備えるために第二次大戦後に設けられたため池である。

大杣池

柘植は、壬申の乱の時、大海人皇子（のちの天武天皇）が吉野から美濃に逃れる際に通った場所である。古来より人の往来があり、大和街道の上柘植宿がおかれていた。その街中に、都美恵神社がある。この神社は、由来では出雲民族の神を祀るとされている古い神社であるが、名前については神戸神社と同じく倭姫命が天照大神を祀った敢都美恵宮からとったとされている。

都美恵神社

近くに徳永寺がある。この寺は1582（天正10）年の本能寺の変の後、徳川家康が堺から三河に脱出する際に立ち寄ったとされている。瓦には徳川家由来の葵の紋がついており、また藤堂家代々の寄進状が市指定文化財として残っていて、徳川家との特別の関係をうかがわせる。

徳永寺

松尾芭蕉の墓

福地城跡

佐那具付近の柘植川

御墓山古墳

敢國神社

高台にある柘植歴史民俗資料館では、この地方の歴史を示す展示のほか、2階には伊賀を代表する江戸時代の俳人松尾芭蕉、明治時代の医師橋本策、大正・昭和時代の小説家横光利一に関する資料が展示してある。橋本は、明治初期の生まれで、九州大学卒業後、甲状腺リンパ腫の病気である橋本病を発見し、世界的に知られている。資料館玄関からの景色は見晴らしがよく、上柘植の街が一望できる。

資料館から柘植川を挟んで反対側の山際に、萬壽寺と福地城跡がある。萬壽寺には松尾芭蕉の墓がある。寺の横を上っていくと城跡がある。城の一部は名阪国道によって削られているが、四方を土塁で囲まれた中世の城である。松尾芭蕉の祖先は福地氏の一族であるとされており、城跡は芭蕉公園となっている。

柘植川が上野盆地に出るあたりに、大和街道の佐那具宿がある。柘植川を渡ったところに坂之下があるが、そこに古代伊賀国の政庁がおかれていた国史跡伊賀国庁跡がある。

宿の南東に三重県最大規模の国史跡御墓山古墳がある。五世紀前半に築かれた前方後円墳である。埋葬されているのは、孝元天皇の皇子で四道将軍の一人として北陸方面に派遣された、大彦命と伝えられている。

名阪国道伊賀一之宮インターチェンジの南側に、伊賀国一宮の敢國神社がある。658（斉明天皇4）年の創建で、大彦命、少彦名命、金山比咩命の三柱が祭られている。伊賀だけではなく、広く信仰を集めている神社である。

柘植川は関西本線に沿って流下し、伊賀市北部の伊賀上野橋付近で服部川に合流する。

5 伊賀市街地

伊賀市の市街地は上野盆地の北部にある丘陵の上にある。**伊賀上野城**は市街地のやや北寄りに位置している。この城は、1585（天正13）年に大和郡山から移封された筒井定次によって近世の城郭として建設されたが、関ヶ原の戦いの後、1608（慶長13）年に藤堂高虎が伊勢および伊賀の領主として封ぜられた時、大坂の豊臣方との戦に備えて改築された。城の西側には、日本有数の高さを誇る高石垣が築かれている。城内には、**芭蕉翁記念館**、**俳聖殿**、**忍者博物館**などがある。

伊賀上野城天守閣

伊賀上野城高石垣

コラム③ 岩倉峡狭窄部と上野遊水地事業

木津川上流部は、伊賀盆地出口の岩倉峡がボトルネックとなって、古来より水害に悩まされてきた。とりわけ、1854（安政元）年の地震で、伊賀市街地北部が沈下し、岩倉峡への水はけが悪くなったため、大雨が降れば水害の被害が発生するという状況となった。

水害の被害を防ぐには、岩倉峡を開削して、下流に流れる水量を増加させることが考えらえるが、これによって下流部の堤防のかさ上げ等の工事が膨大なものとなるため、名張川などにダムを建設するとともに、岩倉峡の手前に遊水地を設置して、増水した河川水を一時、遊水地に貯留し、水位が低下した時に放流することが計画された。

上野遊水地事業では、図のように、新居（にい）、小田（おた）、長田（ながた）、木興（きこ）の四つの遊水地が建設されている。本事業については、上野遊水地集中管理センター資料室（〒518-0825　三重県伊賀市小田町242）で、資料を見ることが可能である。

この事業の一環で木津川支流の前深瀬川に川上ダムが着工されたが、現在、国のダム見直しで本体工事が見送られている。

崇廣堂

崇廣堂の額

旧小田小学校

浸水記録標

淀川遡航終点碑

城の南にある国史跡**旧崇廣堂**（すうこうどう）は、建物が現存している日本でも数少ない藩校で、藤堂藩が1821（文政4）年に設立したものである。学問をする施設と剣道など武術を学ぶ施設が設置されていたが、武術の施設はのちに学校用地となり、現在は崇広中学校となっている。崇廣堂の講堂は四方を広縁で囲まれた大きな建物で、正面には米沢藩の改革で有名な上杉鷹山（ようざん）が書いた扁額(レプリカ)がかかっている。当時の藩主藤堂高兌（たかさわ）がその徳をしたって揮毫を依頼した。

城の西側にある県指定文化財**旧小田小学校本館**は、1881（明治14）年に地元の寄付によって建てられたもので、木造の小学校校舎としては三重県で最も古いものである。内部は展示室となっていて、1階は昔の教室が復元され、2階では教科書などを見ることができる。また、2階の窓には当時のステンドグラスが今も使われている。

西大手の交差点から西へ坂を下ると、**鍵屋の辻**に出る。ここは、1634（寛永11）年に日本三大仇討の一つである伊賀越仇討のあった場所で、今は**鍵屋の辻史跡公園**となり**伊賀越資料館**がある。

そこを過ぎた辻の西南に**浸水記録標**が立っていた（現在は撤去）。このあたりは幾度も浸水しており、記録標の最高水位は2.52mと記されていた。このときの水害（昭和28年災害）では、標高140m以下の河岸低地を水浸しにし、伊賀市街地より一段低い所にあった小田（おた）の集落が水没した。伊賀盆地における洪水のひどさが思いやられる。

木津川に架かる長田橋へ上る坂の途中、右手に**淀川遡航終点碑**が立っている。岩倉峡には、大きな岩盤があってその上流部は湖のようになっていたのを、慶長年間（1596～1615）に筒井定次が京都の豪商、角倉了以に要請してこれを除去させ

た。角倉は、同時に水路を開き、高瀬舟での舟運を**長田橋**付近まで開通させた。橋のあたりに港がつくられたことが古い資料に残っている。この碑は、淀川改修百周年の記念に港があった小田に建てられたものである。なお、舟運は、1854（安政元）年の安政の大地震により岩倉峡で崩落があったり、上野盆地で地盤沈下があって、舟の通行が困難となり廃止とされた。

伊賀市街地には、松尾芭蕉にちなんだ場所がいくつもある。伊賀街道と大和街道が出会う**上野農人町**の交差点付近の愛染院には芭蕉翁故郷塚が、また**上野赤坂町**には芭蕉の生家とされている建物があるが、上柘植にも生誕地の碑があり、誕生の地は定かではない。

城の南の**上野西日南町**には、芭蕉の門人の服部土芳の草庵であった県史跡および名勝**蓑虫庵**がある。伊賀市には芭蕉ゆかりの草庵が五つあったが、現存しているのはこの草庵だけである。住宅地の中に比較的大きな木立があり、その中に茅ぶきの庵が立っている。服部土芳は、この地において焦風の俳句の普及に努めた人である。芭蕉は、庵が建った時のお祝いに

「みの虫の音を聞きにこよ草の庵」

という句を贈り、庵の名前はこの句から取られた。

木興遊水池の水門と越流堤堰
（長田橋付近）

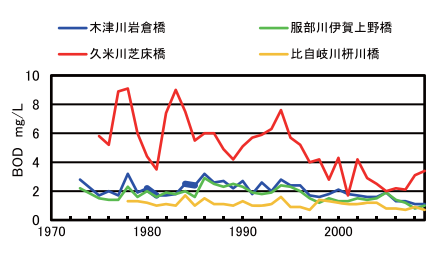
蓑虫庵

コラム④ 木津川上流部の水質

図は、木津川上流部の河川水質を示したものである。岩倉橋（木津川）、伊賀上野橋（服部川）、芝床橋（久米川）、枅川橋（比自岐川）で、久米川は伊賀市街地の南部を流れる川で、生活系排水の流入が考えられる。比自岐川は、農村を流れる川である。

最近は、芝床橋（久米川）以外のBODは、ほぼ1mg/Lとなっているが、久米川については、他に比べて高いうえに、いったん減少したものの、増加傾向にある。

伊賀市は、公共下水道が完備されておらず、その影響が考えられる。



6 岩倉峡・島ヶ原

木津川と島ヶ原大橋

観菩提寺（正月堂）

大和街道 藤堂藩関所跡

木津川が、**上野盆地**を出ていくところが岩倉峡で、その先に島ヶ原がある。

岩倉峡は川の中に大小の岩が散在し、両側から山塊が迫って渓谷美をなしている。右岸の道路を川下に進むと上方に吊り橋が見えてくる。そのあたりが岩倉峡公園で、キャンプ場も設置されている。1904年（明治37）年に巌倉水力発電所が設置されたが、1953（昭和28）年の洪水で被害を受けて1955（昭和30）年に廃止となり、その水路跡が遊歩道となっている。

島ヶ原は、大和街道（奈良街道）の宿場町として栄えたところである。山の方に上がっていくと本尊の木造十一面観音立像（国指定重要文化財）がある**観菩提寺**がある。正月には県無形民俗文化財に指定されている修正会が開催され、東大寺の修二会（お水取り）が二月堂で行われるのと対比して、**正月堂**と呼ばれ多くの人が参詣する。島ヶ原から大和街道を奈良方面に行くと山菅に藤堂藩の関所跡がある。

岩倉峡のつり橋